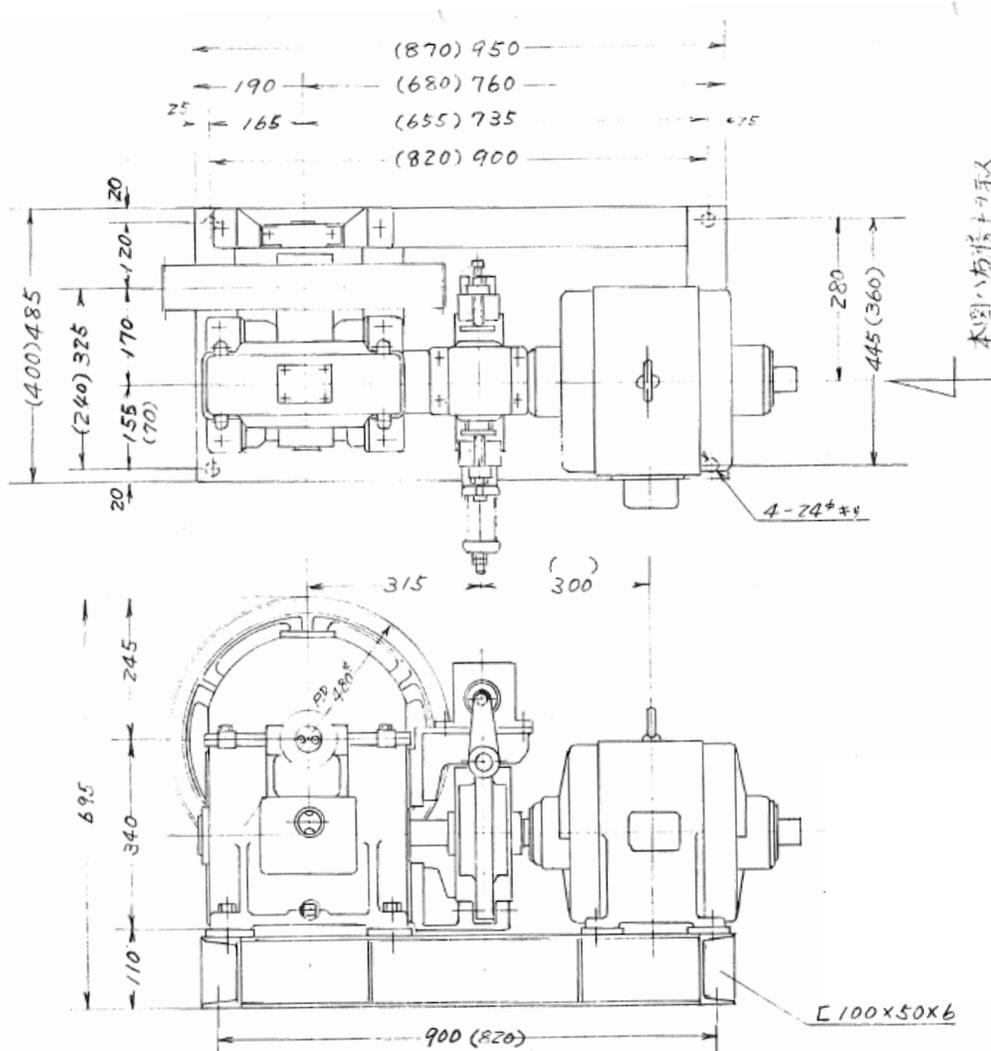


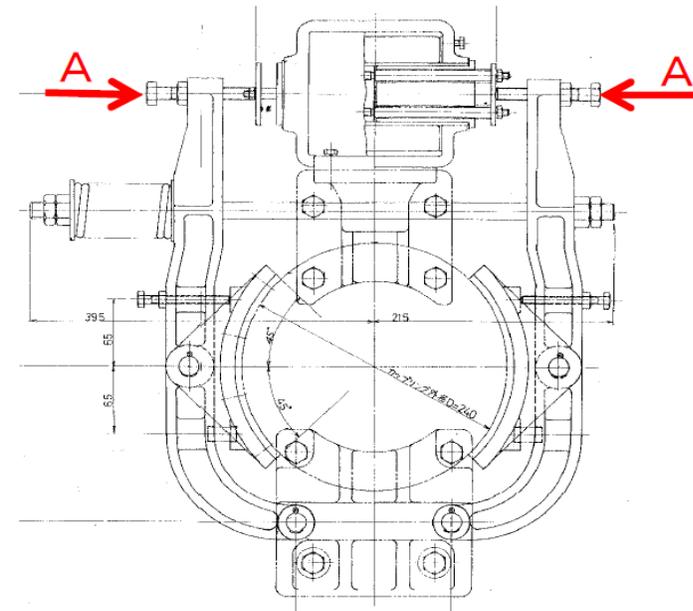
KTM-26型

外形図



プランジャーストローク測定

機種	鉄芯部最小 ストローク「A」 (mm)	鉄芯部最大 ストローク「A」 (mm)	標準ストローク (調整ネジ部における 片側のストローク量) (mm)
KTM-26	0.3	0.9	0.5
KTM-32	0.3	0.8	0.5
KTM-39	0.3	0.8	0.5



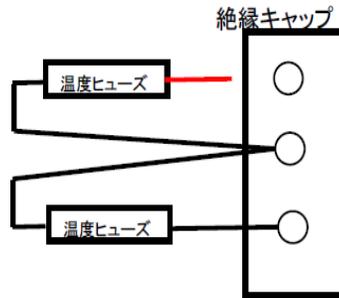
ストローク測定位置
KTM-26/32/39

KTM-26型

温度フューズ点検手順

16 制御盤内のメインブレーカーをONにして、通常の動作が正常動作することを確認して下さい。

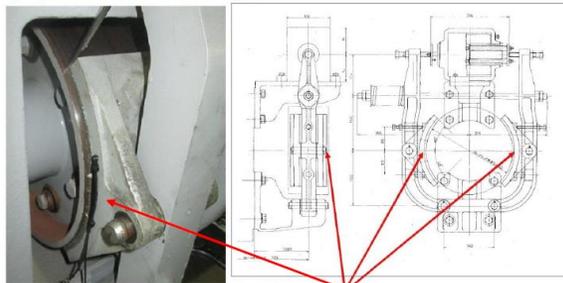
17 制御盤内のメインブレーカーをOFFにし、温度フューズの配線を1ヵ所外して下さい。



18 制御盤内のメインブレーカーをONにしても、SRリレーがOFFであることを確認して下さい。

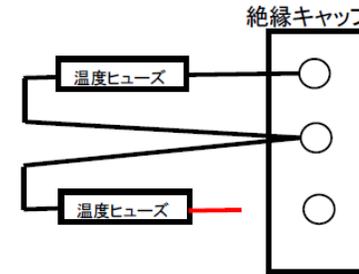
<KM製の場合>

①温度フューズを取り付ける(左右とも)。



ブレーキシュー付近に温度フューズを接着剤(アロンアルファEXTRA)で固定して下さい。
熱収縮チューブの部分は、全面接着して下さい。

19 制御盤内のメインブレーカーをOFFにし、温度フューズの配線を戻して下さい。
手順17と反対側の温度フューズの配線を外して下さい。



20 制御盤内のメインブレーカーをONにしても、SRリレーがOFFであることを確認して下さい。

21 制御盤内のメインブレーカーをOFFにし、温度フューズの配線を戻して下さい。

22 制御盤内のメインブレーカーをONにし、SRリレーがONしていることを確認して下さい。

23 行先登録、あるいは乗場呼び登録を行い、上昇運転させて下さい(下降運転でも可)。

24 運転中にBRリレーを外して下さい。

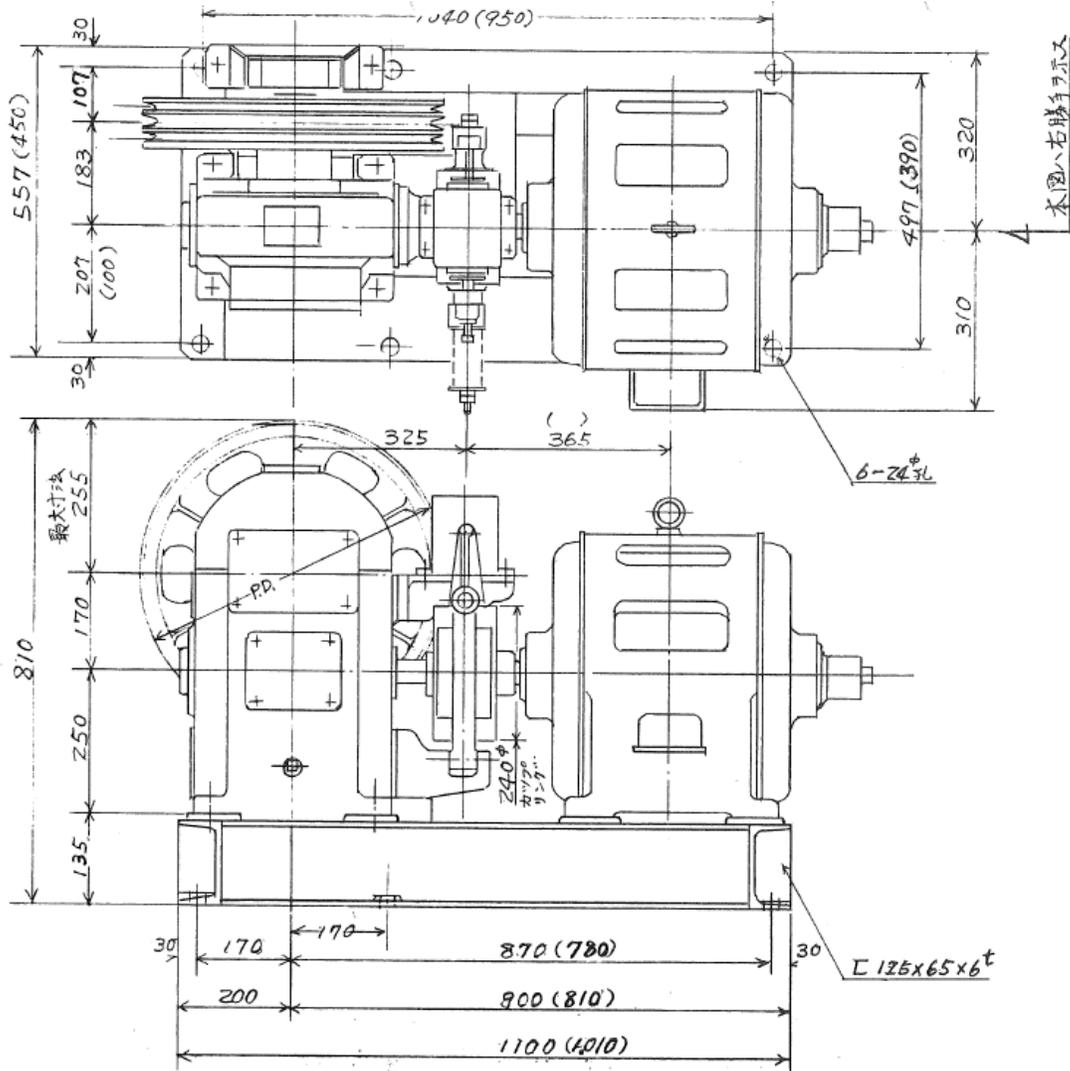
25 着床後、SRリレーがOFFし、行先及び呼び登録が効かないことを確認して下さい。

26 制御盤内のメインブレーカーをOFFにし、BRリレーを取り付けて下さい。

27 制御盤内のメインブレーカーをONにし、SRリレーがONし、通常の動作が正常動作することを確認して下さい。

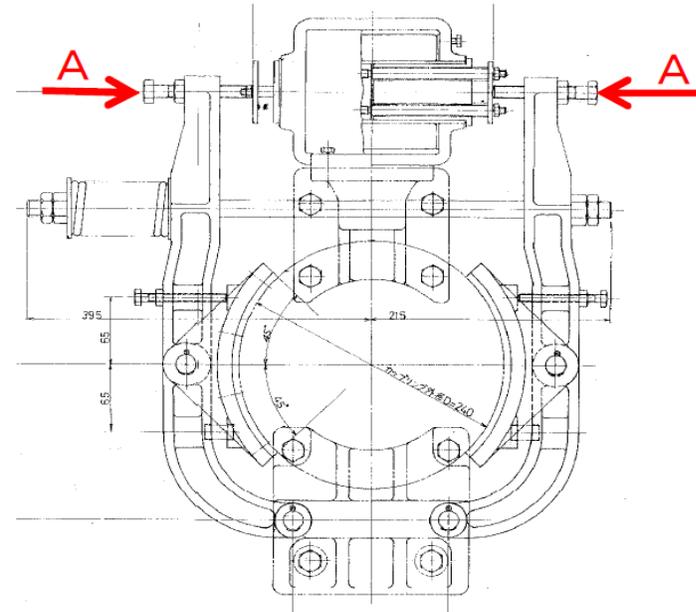
KTM-32型

外形図



プランジャーストローク測定

機種	鉄芯部最小 ストローク「A」 (mm)	鉄芯部最大 ストローク「A」 (mm)	標準ストローク (調整ネジ部における 片側のストローク量) (mm)
KTM-26	0.3	0.9	0.5
KTM-32	0.3	0.8	0.5
KTM-39	0.3	0.8	0.5



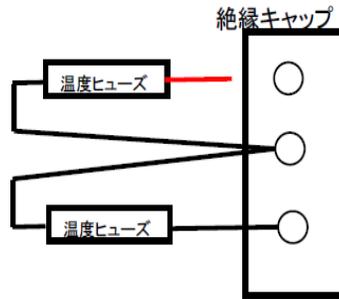
ストローク測定位置
KTM-26/32/39

KTM-32型

温度フューズ点検手順

16 制御盤内のメインブレーカーをONにして、通常の動作が正常動作することを確認して下さい。

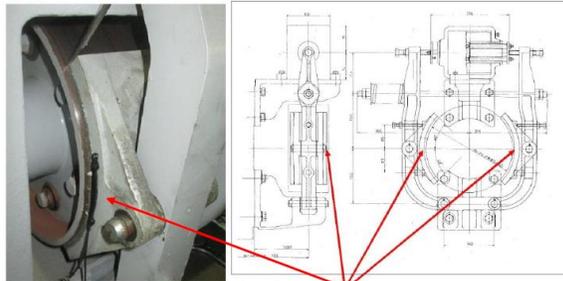
17 制御盤内のメインブレーカーをOFFにし、温度フューズの配線を1ヵ所外して下さい。



18 制御盤内のメインブレーカーをONにしても、SRリレーがOFFであることを確認して下さい。

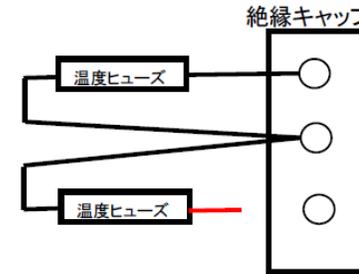
<KM製の場合>

①温度フューズを取り付ける(左右とも)。



ブレーキシュー付近に温度フューズを接着剤(アロンアルファEXTRA)で固定して下さい。
熱収縮チューブの部分は、全面接着して下さい。

19 制御盤内のメインブレーカーをOFFにし、温度フューズの配線を戻して下さい。
手順17と反対側の温度フューズの配線を外して下さい。



20 制御盤内のメインブレーカーをONにしても、SRリレーがOFFであることを確認して下さい。

21 制御盤内のメインブレーカーをOFFにし、温度フューズの配線を戻して下さい。

22 制御盤内のメインブレーカーをONにし、SRリレーがONしていることを確認して下さい。

23 行先登録、あるいは乗場呼び登録を行い、上昇運転させて下さい(下降運転でも可)。

24 運転中にBRリレーを外して下さい。

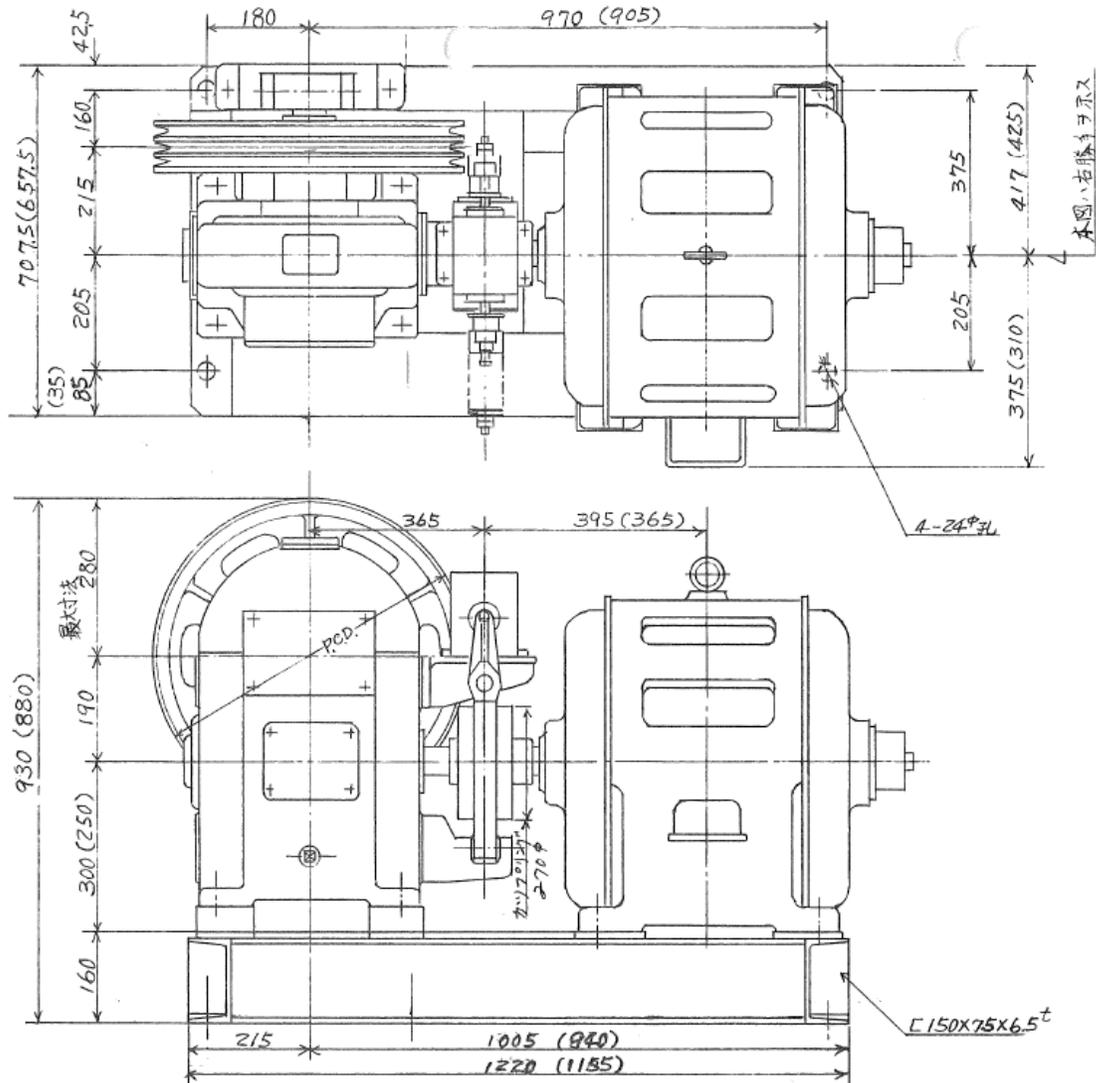
25 着床後、SRリレーがOFFし、行先及び呼び登録が効かないことを確認して下さい。

26 制御盤内のメインブレーカーをOFFにし、BRリレーを取り付けて下さい。

27 制御盤内のメインブレーカーをONにし、SRリレーがONし、通常の動作が正常動作することを確認して下さい。

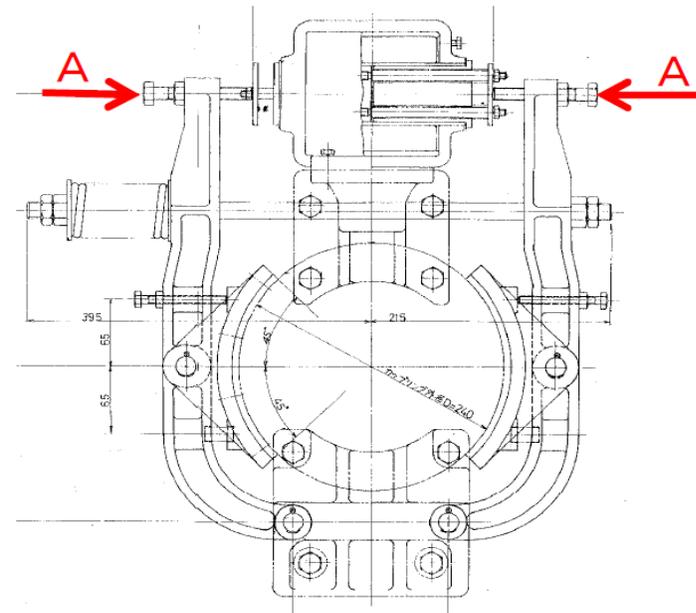
KTM-39型

外形図



プランジャーストローク測定

機種	鉄芯部最小 ストローク「A」 (mm)	鉄芯部最大 ストローク「A」 (mm)	標準ストローク (調整ネジ部における 片側のストローク量) (mm)
KTM-26	0.3	0.9	0.5
KTM-32	0.3	0.8	0.5
KTM-39	0.3	0.8	0.5



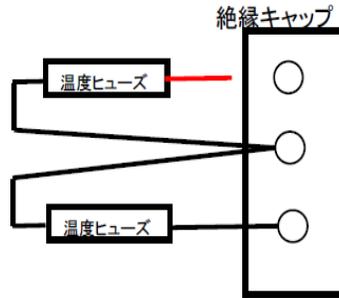
ストローク測定位置
KTM-26/32/39

KTM-39型

温度フューズ点検手順

16 制御盤内のメインブレーカーをONにして、通常の動作が正常動作することを確認して下さい。

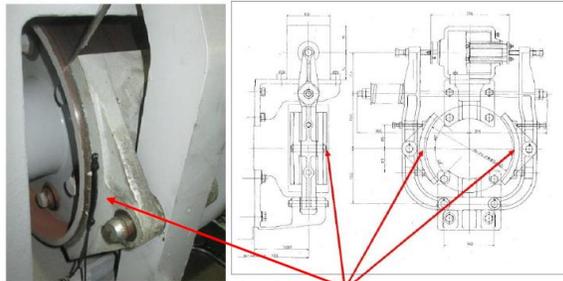
17 制御盤内のメインブレーカーをOFFにし、温度フューズの配線を1ヵ所外して下さい。



18 制御盤内のメインブレーカーをONにしても、SRリレーがOFFであることを確認して下さい。

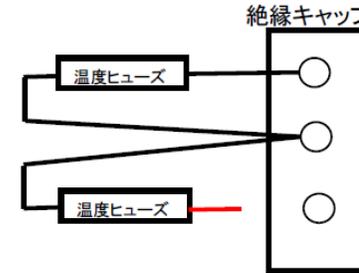
<KM製の場合>

①温度フューズを取り付ける(左右とも)。



ブレーキシュー付近に温度フューズを接着剤(アロンアルファEXTRA)で固定して下さい。
熱収縮チューブの部分は、全面接着して下さい。

19 制御盤内のメインブレーカーをOFFにし、温度フューズの配線を戻して下さい。
手順17と反対側の温度フューズの配線を外して下さい。



20 制御盤内のメインブレーカーをONにしても、SRリレーがOFFであることを確認して下さい。

21 制御盤内のメインブレーカーをOFFにし、温度フューズの配線を戻して下さい。

22 制御盤内のメインブレーカーをONにし、SRリレーがONしていることを確認して下さい。

23 行先登録、あるいは乗場呼び登録を行い、上昇運転させて下さい(下降運転でも可)。

24 運転中にBRリレーを外して下さい。

25 着床後、SRリレーがOFFし、行先及び呼び登録が効かないことを確認して下さい。

26 制御盤内のメインブレーカーをOFFにし、BRリレーを取り付けて下さい。

27 制御盤内のメインブレーカーをONにし、SRリレーがONし、通常の動作が正常動作することを確認して下さい。